

■コメント

1. RSウイルス感染症

定点当たり3.21人と、報告数の多い状況が続いています。今年は、全国的に例年と比べて早い時期から報告数が増加しており、注意が必要です。

マスクの着用や咳エチケット、手洗いを励行するなど感染予防対策を徹底しましょう。

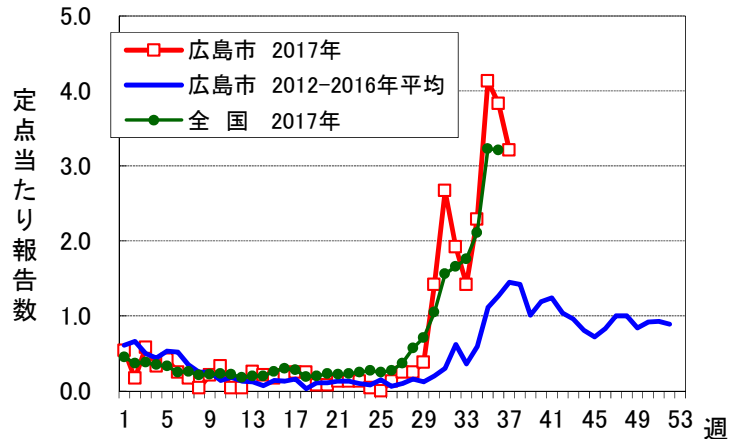
2. インフルエンザ

定点医療機関から10人(定点当たり0.27人、迅速診断キット:すべてA型陽性)の報告がありました。咳エチケット、手洗いを励行するなど感染予防対策を心がけましょう。

3. 日本紅斑熱

1件の報告があり、今年の累計は2件となりました。(次頁参照)

RSウイルス感染症の流行状況



【参考】厚生労働省「RSウイルス感染症Q&A」

http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/rs_qa.html

■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年(注)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年(注)	発生記号
フィルン	インフルエンザ	10	0.27	0.05		小児科	流行性耳下腺炎	-	-	0.68	
小児科	咽頭結膜熱	4	0.17	0.44		眼科	RSウイルス感染症	77	3.21	1.45	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	35	1.46	1.31		眼科	急性出血性結膜炎	-	-	-	
	感染性胃腸炎	87	3.63	4.21		眼科	流行性角結膜炎	8	1.00	1.20	
	水痘	4	0.17	0.49		基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-	
	手足口病	48	2.00	2.22		基幹	無菌性髄膜炎	-	-	0.17	
	伝染性紅斑	-	-	0.16		基幹	マイコプラズマ肺炎	-	-	0.29	
	突発性発しん	4	0.17	0.39		基幹	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	百日咳	-	-	0.08		基幹	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	
	ヘルパンギーナ	7	0.29	0.53							

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減
微増減	↖	↙	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
横ばい	→	←	ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	2	101	男性(40歳代)・1人、男性(70歳代)・1人
4	A型肝炎	1	1	男性(40歳代)・市外
4	日本紅斑熱	1	2	女性(40歳代)・市外
4	マラリア	1	2	男性(40歳代)・推定感染地域: 国外
5	侵襲性肺炎球菌感染症	1	4	男性(10歳未満)
5	梅毒	2	48	男性(30歳代)・1人、女性(30歳代)・1人

■定点把握感染症報告状況(週報対象)の推移

			インフル エンザ	咽頭結 膜熱	A群溶 血性レ ンサ	感染性 胃腸炎	水痘	手足口 病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパ ンギー ナ	流行性 耳下腺 炎	RSウィ ルス感 染症	急性出 血性結 膜炎	流行性 角結膜 炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズ マ肺炎	クラミ ジア肺 炎	(ロタ ウイルス)	感染性 胃腸炎
報告数	広島市	第33週	1	6	34	79	15	73	3	10	-	14	1	34	-	7	-	-	-	-	-	-
		第34週	-	7	33	98	20	83	-	9	-	21	3	55	2	6	-	1	-	-	-	-
		第35週	21	8	38	97	6	56	2	5	-	23	1	99	1	3	-	-	1	-	-	-
		第36週	13	14	48	86	9	45	3	10	2	15	2	92	-	3	-	-	-	-	-	-
		第37週	10	4	35	87	4	48	-	4	-	7	-	77	-	8	-	-	-	-	-	-
定点 当たり	広島市	第33週	0.03	0.25	1.42	3.29	0.63	3.04	0.13	0.42	-	0.58	0.04	1.42	-	0.88	-	-	-	-	-	-
		第34週	-	0.29	1.38	4.08	0.83	3.46	-	0.38	-	0.88	0.13	2.29	0.25	0.75	-	0.14	-	-	-	-
		第35週	0.57	0.33	1.58	4.04	0.25	2.33	0.08	0.21	-	0.96	0.04	4.13	0.13	0.38	-	-	0.14	-	-	-
		第36週	0.35	0.58	2.00	3.58	0.38	1.88	0.13	0.42	0.08	0.63	0.08	3.83	-	0.38	-	-	-	-	-	-
		第37週	0.27	0.17	1.46	3.63	0.17	2.00	-	0.17	-	0.29	-	3.21	-	1.00	-	-	-	-	-	-
	全国	第35週	0.17	0.48	1.22	3.37	0.20	5.58	0.07	0.46	0.01	1.41	0.36	3.23	0.01	1.00	0.04	0.04	0.32	0.01	0.01	0.01
		第36週	0.18	0.51	1.45	3.32	0.20	4.17	0.06	0.48	0.01	1.06	0.37	3.21	0.02	0.98	0.02	0.08	0.27	0.01	0.01	0.02

■新たに判明した病原体検出状況

(検査:広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
感染性胃腸炎	嘔吐 腹痛	1	男	2017/08/05	糞便	パレコウイルス1型
その他の呼吸器疾患	発熱(39.2) 上気道炎 気管支炎	1	女	2017/08/07	咽頭拭い液	RSウイルス
	熱性痙攣					ライノウイルス
その他の呼吸器疾患	発熱(40.8) 咽頭炎	0	男	2017/08/11	咽頭拭い液	RSウイルス
その他の呼吸器疾患	発熱(38.3) 鼻炎	0	男	2017/08/12	咽頭拭い液 鼻汁	ライノウイルス
その他の疾患	発熱(38.5)	0	女	2017/07/21	咽頭拭い液 糞便 鼻汁	コクサッキーウイルスB2型
その他の疾患	発熱(38.0)	0	男	2017/08/08	咽頭拭い液 鼻汁	コクサッキーウイルスB2型

* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載

【参考】ダニ類が媒介する感染症に注意しましょう。

-日本紅斑熱／重症熱性血小板減少症候群(SFTS)／つつが虫病-

日本紅斑熱は、日本紅斑熱リケッチアを保有するマダニに咬まれることにより感染する病気で、2～8日の潜伏期間を経て、頭痛・発熱・倦怠感を伴って発症します。症状の主な特徴は、発熱・発しんで、ダニの刺し口が見られることもあります。マダニの活動が盛んな春から秋にかけて患者が発生しています。

このほかに、SFTSやつつが虫病も、ダニ類が媒介する感染症です。

これらのダニ類が媒介する感染症を予防するため、次のような対策をとることが重要です。

- ・山や草むらに入るときは、長袖・長ズボン、足を完全に覆う靴、帽子、手袋を着用し、首にタオルを巻く等、肌の露出を少なくし、ダニの付着を防ぎましょう。
- ・屋外活動後は入浴し、ダニが付着していないかチェックしましょう。

ダニが吸着していた場合は、皮膚科を受診し、除去してもらってください。また、発熱等の症状が出た場合は医療機関を受診してください。

【参考】厚生労働省「ダニ媒介感染症」 <http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164495.html>

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページでご覧いただけます。

URL <http://www.city.hiroshima.lg.jp/eiken/center.html>

【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号
TEL (082) 277-6575 FAX (082) 277-5666 E-Mail ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp

2017年第37週(9月11日～9月17日)